
影の夢

z__deracine

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

影の夢

【Nコード】

N9303Z

【作者名】

z|deracine

【あらすじ】

夢の中、「私」は古い家屋がひしめき合う、狭い路地に立っていた。

※他サイトに掲載

古い家屋がひしめき合う、狭い路地に立っていた。ぽつぽつと灯りのついた窓もあるけれど、辺りは暗く静まり返っていて、人の気配がまるでしない。狭い路地から仰ぎ見ると、古い家々のすすけた木の外壁が、薄暗い街灯にぼんやりと照らし出されて、いまにも私に覆いかぶさってきそうだった。なだらかな傾斜のついた路地は舗装されておらず、何度も靴を脱いで砂利を取り除いた。街灯に照らしたされた自分の影を、なんとなく眺めながら路地を進んでいくと、足場の悪い、急な階段に差し掛かった。どこまで続くのか先が見えず、一瞬、降りていくのを躊躇したけれど、ブロック塀をつたいながら慎重に降りていくことにした。少しすると、黒い人影が上ってくるのが見え、階段の左側に身をよせた。初老の男性のようで、何かを罵倒するように、わめき散らしている。恐くなり、もと来たほうへ戻ろうかと思った瞬間、男性は私と同じ段にいた。目の前に居るというのに、男性は黒い影のままだった。早鐘を撞くように胸が高鳴り、恐怖で目を瞑った。影は大声で私をどやしつけたが、何を言っているのか、まったく聞き取れない。早く過ぎ去って欲しいと心の中で念じると、激しい雨が降ってきて、声は、トタン屋根に当たる激しい雨音にかき消された。思い切って目を開けてみると、影は姿を消していた。安堵すると同時に体が震え、その場にへたり込んだ。下のほうに目を凝らすと、階段の終わりが見え、少し離れたところに小さな駅らしき建物も見えたので、そこで雨宿りをしようとして、階段を降りていった。あと2、3段でようやく階段が終わるという時に轟音がして、黒く巨大な飛行機が、かなりの低空飛行で頭上を過ぎ去っていった。その時、駅のほうからこちらに呼びかける声がして、見ると男の人が手招きをしていた。不審感を覚えつつも、心細くて、その人のもとへ向かった。その人は、この場所においては危険だと言い、安全な場所まで案内してくれるという。傘に入れて

もらって色々な話をするうちに、その人と、以前会った事があるような気がしてきた。すっかり打ち解け、私の心は安心感に満たされていた。10分ほど歩くと、大きな門構えのお寺に着き、男の人は、ここまでくれば安全だと言って、先に門の中へ入って行った。私もそれに続いたが、門をくぐると、そこに男の人の姿はなく、呼びかけても返事はない。境内は真っ暗で、一気に恐怖心がよみがえった。その場に立ち尽くしていると、背後で何かが動く音がした。慌てて振り向くと、私のすぐ後ろに、巨大な黒い影が立っていた。

そこで目が覚めた。

(後書き)

目が覚めたときに、鮮明に覚えていた夢を文章にしたもの。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9303z/>

影の夢

2011年12月29日01時55分発行